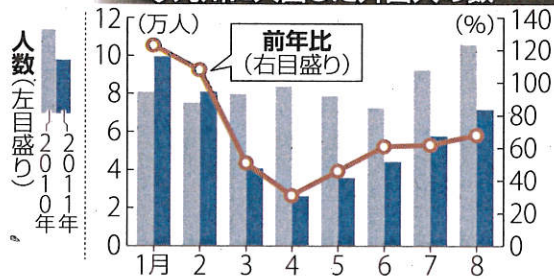


# 留学生 日本観光PR役

外国人観光客を誘致するため、海外から来た留学生のボランティアを活用する取り組みが注目を集めている。福島第一原子力発電所の事故や円高の影響で観光客が減少する中、通訳ガイドやブログによる情報発信を通じて、日本の安全性や良さをPRしてもらおうという狙いがあるからだ。国も留学生の目線を生かして外国人受け入れ態勢を見直す事業に着手した。

(阪東峻一)

九州に入国した外国人の数



## 原発事故、円高で苦境

博多港にクルーズ船で到着した中国人観光客を案内する徐さん(右端、福岡観光コンベンションビューロー提供)



24・9%減)。震災の影響は続いている。回復策の一つとして国も留学生約1000人を活用し、外国人をもてなす際の課題解消に向けた事業に着手した。

九州運輸局は10月、アジアからの留学生10人に九州を旅行した際の不便な点を聞き取った。「主要観光地でも標識などに外国語表記が少なく、迷ってしまう」などの指摘があり、同局などは改善に乗り出す方針。

九州の留学生数は約1万5000人。九州経済調査協会の岡田祥伸調査役は「留学生は帰国後、観光のため家族連れで再来日する可能性もあり、留学生生活は将来の需要掘り起こしにもなる。ただし通訳に終わらせるのではなく、日本の歴史や文化を学び案内もできる質の高いガイドを育てるべきだ」と指摘する。

## 通訳ガイド・母国語で旅ブログ

### ■買い物をサポート

「1階のブランド店に至急来てください」。福岡市・天神の百貨店・博多大丸で携帯電話が鳴った。中国から福岡市に留学している中村学園大流通科学部1年、徐浩さん(25)が駆け付ける。と中国人観光客の姿が。「最新のデザインは」「この写真の商品はありますか」。日本人店員とのやり取りを通訳しながらサポートする。

徐さんは昨年5月、市の外郭団体「福岡観光コンベンションビューロー」のウエルカムサポーター制度に登録。博多港に海外船が来

た際のガイドを担当し、回数は50回を超えた。

震災後、「君は帰らなくて大丈夫なのか」と聞かれることが増えた。しかし「福岡と福島は1000キロ近く離れているので問題はない」などと丁寧に説明して、不安の払拭に努めたという。

博多大丸の販売サービス企画部、花野周朗さん(48)は「外国人観光客にとって同国籍の留学生とのやり取りは安心できるし震災に伴う誤解や風評被害の解消にもつながる」と期待する。

制度が始まった2008年度の登録数は57人。今年度は153人(うち中国人95人に増えた。福岡観光コンベンションビューローは「今は地道に安全性をPRしていくしかないが、来年はクルーズ船大型化も予定されており、最低でも200人にしたい」と意気込む。

### ■散策記を投稿

留学生に県内の観光地を巡った感想を母国語でインターネットのブログに書きこんでもらう事業を実施しているのは大分県。同県から委託を受けた中国と韓国の留学生6人が別府、由布両市を散策し、美術館の不思議な絵画や高崎山のサル

の赤ちゃんの写真や思い出をブログに掲載。同県国際政策課は「実際に観光地を見て母国語で発信するので説得力がある」とする。

宇都宮市のボランティア団体「宮まちづくりネットワーク」は6月、栃木県内の32人を同県大田原市の観光ツアーに招待。参加者はネットにアユの塩焼きの試食や地酒の試飲の様子を投稿し、安全性をPRした。

### ■国も注目

9月に入国した外国人の数は約54万人(前年同月比